

---

○ 薩摩大口のユズリハとインユズリハ (倉田悟) S. Kurata : Local Names of *Daphniphyllum* in Japan.

本州中南部、四国、九州にはユズリハとヒメユズリハが広く分布し、ツルノハ (九州)、ワカバ (四国、紀州)、シヨウガツサン (隠岐)、メンツアシ (周防滑国国有林)、イタガネ (周防柳井) などといった方言名もあるが、概ねユズリハの名が通用し、しかもこの両樹種に別名を与えて区別する例は少い。四国樹木名方言集 (1936年) によれば、ヒメユズリハが、イヌワカバ (土佐幡多郡)、イヌユズリハ (同、同高岡郡)、カタエズリ (同) と呼ばれ、真物のユズリハから区別されている。しかし、里人が正当のユズリハと認めるものが、何時もこの土佐の様にユズリハであるとは限らない。大口市羽月の麓部落では逆に、ヒメユズリハがユズリハ、ユズリハがインユズリハと名付けられている。大隅半島の鹿屋市高山事業所の榎木栄次郎さんは、高山では両樹種をユズリハといつて総称するほか、特にメズリハをホンユズリと称して正月の飾りに用いるが、日向南部の福島ではヒメユズリハをホンユズリハ、ユズリハをウマユズリハと呼んでいると説明して下さった。伊豆三宅島でもヒメユズリハがユズリハ或はユズノキと呼ばれ、ユズリハはジョウゴノキ或はケツツマリという特異な方言名を持つている。かようにユズリハの真物はその土地によつて異なる訳である。概ね、ユズリハは奥山に、ヒメユズリハは海岸近く或は低地に自生するから、正月用に里人が身近かに採取出来るユズリハがその土地によつて異なり、身近かに沢山ある方が自然に、真物のユズリハとされて来たものであろう。

---